

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成26年10月8日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成26年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ICFやパーソンセンタードケアなどの勉強会を継続して行い、それらの視点と理念である『尊厳を守ること』を大切にケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全体で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者の思いに寄り添いながら専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

研修の充実による職員の資質向上、医療との密接な連携、利用者にとって快適な環境づくりの三点を重点に置きつつ、今年度はとりわけ、地域のイベントに参加したり、事業所行事への地域の方々をお誘いする等交流を通して、地域との連携の強化を図っている。また今までも近隣の方々から季節の作物等おすそ分けをいただいたり、利用者の外出時の見守り等地域との繋がりの中での協力をいただいていたが、「してもらう」だけでなく、地域の資源として事業所の機能を役立てようとしている。例えば、認知症高齢者を抱える家族のための勉強会の講演を行ったり、介護で悩んでいる人たちが気楽に参加できる交流会を企画したりしている。訪問時は、管理者の支援の姿勢や職員の実際のケアの様子から利用者の尊厳を何より大切にしようとしている熱い思いが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示している。毎月行われる勉強会を通じ、職員全体で理念を共有し実践に結びつけるよう努めている。	理念が掲示されているだけでなく、毎月定期的開催される会議やカンファレンス時に、人の尊厳とは何か、尊厳を守るといったことは具体的にはどんな行動を取るべきかという問いを立てて話し合い、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭や行事に参加し地域とのつながりを大切にしている。また、ボランティアや学生の福祉体験の受け入れをしたり、すずらんの木へもいるな方に来て頂けるよう、イベントを計画し積極的に交流するようにしている。	地域の行事に参加するだけでなく、事業所が夏祭り、夕涼み会等を主催し、地域の人たちに参加していただいている。日用品等は地域の店で購入したり、利用者と共に買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の介護教室等にアドバイザーとして参加し、認知症の方を支援してみえるご家族の助けになりたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度一回行ったが、継続的には行えていないため、定期的に行いたい。	多忙な家族の方々の日程調整等を考えると呼びかけを躊躇してしまいがちであり、定期的な開催が全くできていない。年間計画を立てて実行していかなくてはいけないと考えているとのことである。	開催日や時刻、参加の方法を工夫したり運営推進会議の内容を意義あるものにするにより、家族が参加しやすくなるのではないかと考える。定期的な開催に向けた取り組みにぜひ期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について、助言やご指導をいただき、運営の改善に努めている。	グループホームの運営や労務管理等、具体的に指導や助言をいただくなど担当課との連携による運営の改善に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、利用者様の自由な心、開放感、人権を大切にし、小さな事でも、拘束になっていないかと意識を持ちケアしている。夜間以外は施錠はしていない。	利用者の主体性を支えるという立場に立ち、利用者の目線で、身体拘束をしないケアの実践について徹底を図っている。利用者の思いに制限を加えることなく、自由にできるという意識を持っていた。例えば出て行かれる方には、声かけや共に歩く等して危険を回避しており、夜間以外は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で身体的・精神的虐待について学んでいる。入浴時、トイレ介助時などく身体に異常はないか注意深く見るようにしている。何かあれば直ちに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている利用者様がみえるため、勉強させていただいている。スタッフにより知識にバラつきがあるため、皆で勉強できる場があるといいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約の説明は、利用者様・ご家族様にきちんとご納得いただけるよう努めている。改定の際も丁寧な説明を心掛けている。一方的な満足とにならないよう律していきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、イベント時など、ご家族様が気軽に意見や要望を出せる雰囲気作りが心がけ、何かあった時は直ちに職員間で検討し、出来る限り希望に添えるようにしている。苦情受付のポスターの掲示もしてある。	家族が意見や要望を言いやすくするため、家族とのつながりを深める取り組みを行っている。例えば利用者と家族との食事会の実施や外食の行事での家族への参加の呼びかけなどである。また来所時に家族が話しやすい雰囲気作りが心がけたり、毎月便りを発行する等して家族との関係を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の時等、意見交流の場がある。必要なことは反映させるよう努めている。必要に応じて個人面談を行っている。	カンファレンスや学習会の折に運営に関する意見について話し合う場を設けている。また話し合いを行い、運営に反映させるべく努めている。また管理者が職員と面談する機会に運営についての意見も汲み上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員について深い理解を持つことに努め、個人の向上のための環境作りをしている。勉強会を行ったり、研修への参加を促し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会を開催し勉強する機会を作っている。法人外の研修の情報も提供しており、参加に対してバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が少ないため、もっと増やしていきたい。他施設の行っていること、関わり方を知ると、自分自身を客観的に見ることができ、考えさせられることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、事前訪問を行い、本人の意見をお聞きし、初期のサービスに繋げている。入所後は関わりを多く持ち、なじみの関係づくりに努め、不安なく生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時や入所時に、なんでも話してもらえそうな雰囲気作りを中心に心掛け、誠意を持って接し、要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の状況に応じて、他のサービスも含め必要としている支援を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、共同で事を成し遂げる(食事を作る、畑で野菜を育てる、洗濯物干し・たたみをするなど)喜びを作るように努めている。教えていただく場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変があった時にその都度連絡をとったり、日々の暮らしの中の気づきや様子を、面会時や月に一度の手紙でお伝えし、本人のためによいと思われることを共に考え、ご家族との絆を大切にしている。年に一度、家族との食事会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みとしてきたお店(喫茶店・美容院)の関係を大切に、外出支援を行っている。職員も情報を集め、途切れないような促しを行っている。面会も自由にしていただいている。	近隣のスーパーや各種商店、集会所やお寺、神社等々利用者一人ひとりが馴染みとしてきた場所の情報を多く集めている。例えば、町内に朝市が開かれているとの情報を得て出かけたところ馴染みの方に出会えたというエピソードがあったとのことである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、孤立や対立がないよう、絶えず気をつけ、もめ事がある時はすぐに介入している。利用者様同士が支えあえるような場面をセッティングし、よりよい関係を築けるよう働きかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所などへ移られる際には、介護サマリーにて細かな情報をお伝えしている。退所されても必要に応じて相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のふれ合いの中で情報や希望を聞いて意向の把握に努め、アセスメントし、ケアプランを作成し支援している。困難な場合には、日常の言動、表情から読み取るようにしている。	担当制を敷いており、利用者の日常における情報を把握し、全職員で共有している。職員全員が細やかな観察に心がけ、利用者一人ひとりの希望や意向を的確に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には事前調査を行い、ご本人の生活歴などの把握に努めている。他にもケアマネジャーからの情報提供やご家族様から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤記録、介護経過記録、職員間の申し送りにて把握に努め、その状況に合ったケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が面会にみえた時には、本人の状況やご家族の意向をお聞きしている。ご本人からも要望・意見を聞いている。カンファレンス時、職員全体で意見を出し合い、情報交換を行い、現状に合ったプラン作成に努めている。	毎月定期的カンファレンスを持ち、チームケアの観点から職員全員で介護計画を作成している。カンファレンスでは家族や利用者の意見・要望を踏まえた上で、利用者の現状に即したプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録、業務申し送りノートを通じ、職員全体で情報を共有し、毎日のケアに役立てている。記録する事でプランの評価、見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いなど利用者様・ご家族の状態に合わせて、職員間で話し合い、臨機応変に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、太鼓の演奏グループ、バルーンアート、お茶会、落語など地域の様々なボランティアの方に来ていただき、豊かな時間を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の納得が得られたかかりつけ医に状況を把握していただき、急変時にも対応していただいている。何かあればすぐに医療機関にかかるような態勢をとっている。	あらかじめ利用者の状況について情報提供を伝えてから受診する等かかりつけ医との密接な連携ができている。近隣のかかりつけ医とは緊急時に夜間問わず訪問していただけるよう連携体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医受診時に情報や気づきを伝えたり、アドバイスをいただいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時のサマリーのやりとりにて、早期にそれぞれの場所で安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階で、ホーム、家族、医師とで面談を行い、ご家族の希望、ホームでできることを話し合い、書面を交わし同意を得ている。穏やかに最期を迎えられるようチーム全員で支援している。	ホームで最期を迎えたいという利用者、家族の意向も多く、また終末期の看取り経験も多い。終末期ケアの際にはいつでも管理者が駆けつけることができ、医師や家族との連携がスムーズに行える体制にある。宿泊設備もあり、家族が泊まることもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを施設内に設置し、年に一度は講習を受けている。急変時に備えて定期的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。非常用の水、食料が備蓄されている。、職員の非常時の連絡網も作成してある。	建物は十分な耐震対策が施されている。町のハザードマップによる危険地帯ではなく、土砂災害の恐れもない。また2階建てであるため、2階に避難すれば水害の心配も少ない。避難訓練は実施することに気づきがあるので毎月行い、職員のスキルを高めている。	非常時の際には近隣の方々の避難場所となる可能性もあり、電源確保のため発電機を準備しておくことも必要であると考えているので検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを勉強し、一人ひとりの尊厳を大切にしている。利用者様の生活史を知ることで自然と尊重した言葉遣いとなる。勉強会やカンファレンスの際、折に触れ確認している。	全職員で勉強会を行い、利用者の尊厳を大切にケアに努めている。また利用者がやりたくないことを強制せず、トイレ使用時にはドアを必ず閉める、入浴時はタオル等を活用する等してプライバシー保護に努めている。常に親しみある言葉かけを心がけ、個人的な内容は小声での声かけを行う等プライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自由に希望が表出しやすい雰囲気作りをしている。どんな小さな事でも、本人に決めていただけるような言葉かけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりにとらわれず、食事時間や入浴時間など本人の希望に添えるようにしているが、まだまだ不十分であるため、チームプレイに努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は着たい服を選んでいただく、入浴後は化粧水や乳液をつける、紅をさすなど、おしゃれを楽しんでもらうよう支援している。美容院への外出支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を一緒に考えたり、食材をみていただいたりと、台所参加が楽しい時間となるようにしている。一人ひとりの力を見極め、自信を持って楽しくできる仕事をお願いしている。職員も一緒に食事をし、片付けも行っている。	利用者一人ひとりの心身状況に合わせて手伝ってもらえることがあるはずという考えのもと、積極的に参加を促し、皆で協力して食事を作っている。楽しく食事をするため、野外での食事やバイキング方式等、様々な工夫がされている。調理場と食堂の機能的なレイアウトや手厚い職員配置があり、昼食時大変賑やかな食事風景が見て取れた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、多くの食品を摂るようにしている。一人ひとりの状態に合わせ、細かく刻んだり小さなおにぎりを作ったり、副食を少なくするなどしている。水分補給も10時、15時などこまめに行っている。体重の変化の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、特に就寝前は丁寧に口腔ケアを行っている。昼食後は特定の利用者様にしか行っておらず、不十分であるため、働きかけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、声をかけ、トイレでの排泄に努めている。また、利用者様が不快にならないような介入、介助に努めている。	利用者は事前に日々の違うしぐさは異なっても何らかのサインを発するので、排泄チェック表を活用するとともに一人ひとりのしぐさ・行動の特徴を掴んで、このサインを見逃さないように心がけ、声かけやトイレ誘導することによって排泄の自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を付けたり、乳製品を提供したり、ラジオ体操や散歩で体を動かすこと、腹部を温めマッサージを取り入れるなど予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は2日おきに設定はしてあるが、本人希望で昼夜を問わずいつでも入浴できるようにしている。入浴時に本人の意向を伺い、入る時間を相談しながら、入浴を楽しんでいただいている。	脱衣場、洗い場、浴槽は十分な広さがあり、ゆったりと入浴できる。時には仲の良い方が二人で入浴したり、脱衣場にラジカセを持ち込み、浪曲を聞きながらという方もあるとのことで、思い思いに入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具、静かな環境など、気持ちよく眠れるようにしている。必要な方には午睡していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲み終えるまで見届け、チェック表に記入している。処方に変更などがあつた場合には薬の事を申し送り、用法、用量の理解に努めている。服薬内容をすぐに確認できるようファイルしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなこと、得意なことを知り、ホームでの生活が張り合いのある楽しいもの、潤いのあるものになるよう努めている。(歌や外出支援、台所仕事など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご希望に添えるよう、買い出しや喫茶店、美容院などの外出をチーム全体で支え、実現できるよう努めている。車椅子利用のご利用者様にも天候・体調をみて声をかけさせていただいている。	日常生活の一環として頻繁に外出している。病院の外来受診のため、また処方された薬の受け取りにまで利用者が出かけている。テレビを見ながらまた、何気ない会話の中から利用者の希望を把握し、喫茶店、寿司屋、うどん店、ラーメン店、美容院その他地元商店や懐かしい場所への外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には、財布を所持していただいている。お金を持っていることによる安心感、満足感、お金を自由に使える楽しみを大切にしている。ホームの買い物時、一緒に行き、買う事、選ぶ事の楽しさを味わってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により、自由に電話の使用ができる。手紙などいつでも出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、室温や光、テレビの音量など、利用者様が不快にならないよう気を配っている。玄関やリビングには季節の花を利用者様に飾っていただいたり、落ち着いて過ごせる居心地のよい空間となるよう心掛けている。	居間兼食堂に設置されているテレビは各所にスピーカーがあり、どこにいても聞こえるという工夫が施されている。また、廊下のところどころやエレベーターの前等に休憩のための椅子が置かれている。トイレ表示も大きな文字で高齢者に馴染みある表記がなされている。2階のベランダは広く、採光に優れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所や廊下のソファや2階のリビングなど、あるが独り休んでみえたり、台所仕事の後に数人で飲み物を飲みながらおしゃべりしてみえる姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、使い慣れた家具、ぬいぐるみなどの持ち込みをしていただき、家での延長のような気持ちで落ち着いて生活できるようにしている。	居室は全て南向きに設計されており、日当たりが良い。ある部屋の壁には家族の写真がたくさん飾っており、また別の部屋の筆筒の上には利用者が作った作品が所狭しと置かれていた。利用者が思い思いに居心地良く過ごしている部屋になっていることが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるようにトイレの表示、リビングの入口の提灯、浴室ののれん、居室の表札など工夫している。台所用品も定位置に置き、混乱なく自由に使ったり、片付けることができるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPO グループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成26年10月8日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成26年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示している。毎月行われる勉強会を通じ、職員全体で理念を共有し実践に結びつけるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭や行事に参加し地域とのつながりを大切にしている。また、ボランティアや学生の福祉体験の受け入れをしたり、すずらんの木へもいろいろな方に来て頂けるよう、イベントを計画し積極的に交流するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の介護教室等にアドバイザーとして参加し、認知症の方を支えてみえるご家族の助けになりたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度一回行ったが、継続的には行えていないため、定期的に行いたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について、助言やご指導をいただき、運営の改善に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、利用者様の自由な心、開放感、人権を大切にし、小さな事でも、拘束になっていないかと意識を持ちケアしている。夜間以外は施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で身体的・精神的虐待について学んでいる。入浴時、トイレ介助時などく身体に異常はないか注意深く見るようにしている。何かあれば直ちに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている利用者様がみえるため、勉強させていただいている。スタッフにより知識にバラつきがあるため、皆で勉強できる場があるといいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約の説明は、利用者様・ご家族様にきちんとご納得いただけるよう努めている。改定の際も丁寧な説明を心掛けている。一方的な満足とにならないよう律していきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、イベント時など、ご家族様が気軽に意見や要望を出せる雰囲気作りに心がけ、何かあった時は直ちに職員間で検討し、出来る限り希望に添えるようにしている。苦情受付のポスターの掲示もしてある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の時等、意見交流の場がある。必要なことは反映させるよう努めている。必要に応じて個人面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員について深い理解を持つことに努め、個人の向上のための環境作りをしている。勉強会を行ったり、研修への参加を促し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会を開催し勉強する機会を作っている。法人外の研修の情報も提供しており、参加に対してバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が少ないため、もっと増やしていきたい。他施設の行っていること、関わり方を知ると、自分自身を客観的に見ることができ、考えさせられることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査において、ご本人と面会し、話を傾聴し、身体面、精神面を客観的視点でアセスメントしている。ご本人への第一印象をよく思っただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困ってみえる事や要望等、十分に聞くことを大切にしている。また、事業所の理念やサービス内容についても理解していただく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込み時と状態の変化等、度々あるため、「今一番に優先されるべき事柄」を重要視している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護者」としてふるまうのではなく、一緒に過ごす「一人」として同じ立場からの話をできるように心がけている。暮らしを大切にしていかなければならないが、仕事に追われている現状もあるため、振り返りをしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は、月に一度手紙を送るほかに必要時行い、利用者様の現在を理解していただけるよう努め、共に支えていく関係を構築できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や美容院など、職員と共に出かけたり、面会に来られた方とゆっくりお話をさせていただけるようにしている。特定の方のみではなく、皆様に支援を広げていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係性を把握し、速やかな介入が出来る時と出来ない時がある。一緒に活動を行い、関わりを持ったり会話する場面作りをしているが、職員全体がチームで取り組めるともっと向上できると感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも問い合わせや相談に応じている。屋外でお目にかかった時にも近況などお伺いさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のお話を傾聴したり、日々の関わりの中から、本人の意向の把握に努めている。言葉の出ない方の意向は、職員全体で検討しているが、より深めていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネより情報提供をしていたが、把握に努めている。見落としている部分もあると思うので、常に新鮮な目を持ち把握していく必要がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護経過記録や夜間・業務申し送りノート、日程表など、申し送りの徹底に努めているが、チームケアとして、まだまだ改善の余地があり、把握が不十分だと感じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の希望、これまでの環境や個人因子をふまえプランを作成し、カンファレンスにて職員間の意見交換も行っている。勉強会にてICFを勉強し、アセスメントの視点が職員によりバラバラにならないよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録などを利用し、活用しているが、職員一人ひとりの責任感や、重要視する部分が違うため、今後も勉強会などで意識改革に努めていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診への送迎など、その時々状況に合わせ、出来る限りの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶や落語などのボランティアの方が定期的に訪問してくださっている。また、馴染みの店や美容院を把握し、外出支援を行っている。地域の保育園や学校等との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の納得を得られたかかりつけ医に、継続的に看ていただき、状況に応じて適切な医療を受けられるようにしている。歯科の往診もしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師の方との情報交換は常に行い、アドバイス等いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーなどで利用者様の状態をお伝えし、入院によるご本人へのダメージの軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階で、ホーム、家族、医師とで面談を行い、ご家族の希望、ホームでできることを話し合い、書面を交わし同意を得ている。穏やかに最期を迎えられるようチーム全員で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練などを受けているが、繰り返し定期的に訓練をしていき、速やかで的確な判断が出来るようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様と共に避難訓練を年に2度おこなっている。災害対策について、地域との協力体制を強化していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時など、一人ひとりに配慮した声掛けを行っている。声のトーン、表情なども大切にしている。出来ている「つもり」になっていないか、振り返る時間を持ちながらケアに当たりたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で今のお気持ちを聞き出したり、ご自分で決定していただけるような会話に努めているが、もっと表出が困難な方々への工夫が必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の思いやペースを大切にし、できるだけ希望にそって過ごしていただけるよう努めているが、入浴日など職員の都合が優先されている場面もあると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品をそろえたり、馴染みの美容院への外出支援など行い、身だしなみに気を使っている。季節に合わせ、一緒に洋服選びをしている。もっとご自身が興味を示していただけるような促しに努めたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることを手伝っていただき、会話を楽しみながら調理し、職員も一緒に食事をし、片付けまで、役割分担ができています。業務にならないように、たくさんの方に参加していただき力を発揮していただけるよう努めたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日チェックし、不足気味の方には捕食を提供したり、量を調整している。水分量を確保できるよう、工夫しこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は、介助にて口腔ケアを行っている。自立してみえる方々へのケアが不十分であるため、できるようにしていかなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを分析し、トイレで気持ちよく排泄していただけるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて排便の状態を把握し、できるだけ原因を理解し、乳製品を取り入れたり、マッサージや運動なども視野に入れているが、十分でないため、取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日としているが、ご本人の希望によりいつでも入浴していただける。入浴時に本人の意向を伺い、入る時間を相談しながら、入浴を楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の体調に配慮しながら休息していただいたり、寝具や空調を整え気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を用い、服薬確認を行なっている。申し送りノート等で、薬の情報や用法・用量など正しく行えるように共通理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を事前に把握し、ケアプランに取り入れ、活躍の場を設け役割意識を持っていただいたり、嗜好品やお好きなことを生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	特定の人になりがちだが、本人の希望に応えるよう努めている。喫茶店、ドライブ、外食、青空喫茶等外出の機会を作っている。身体機能の落ちている方でも出来る限り支援したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい方は、金庫にお預かりし、必要に応じて財布をお渡ししたり立替をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望の際には電話を自由に使っていただいている。切手や葉書など準備しており、一緒にポストに投函する支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や大きな音など不快な刺激に気をつけ、空調管理をこまめにしている。ご利用者様に花を活けていただき、季節を感じていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファが置かれ、自由に使用していただいている。2階のリビングにて、洗濯物を干した後お茶を楽しんでいただく事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ち込んでいただき、これまでの生活と大きく離れないように、居心地よく過ごしていただけるようにしている。写真等、家族を感じることができるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の張り紙、浴室の「ゆ」ののれん、リビングの入口の提灯など、利用者様に理解しやすいように工夫している。		